

はじめまして。島根県の中部にある高校より、みなさまへお手紙を送らせていただきます。

月日が経つのは早いもので、忘れもしない東北大震災より1年半が過ぎようとしています。みなさまは、いかがお過ごしでしょうか。

私たちは、被災者の方の心境を理解することはできません。しかし、ニュースや新聞で当時の様子を見て、やはり胸が痛くなりました。とても悲しく、島根にいても何かできないかと、ずっと考えていました。

私たちは今、島根県立邇摩高等学校の福祉系列というコースで学習しております。隣接する島根県立出雲養護学校邇摩分教室の生徒たちも一緒に、地域ボランティアに出かけたり、手話や点字を学んだりしています。そんな中、この恐ろしい震災が起きました。震災直後は、全国から多くの支援やボランティア団体がかけつけていたことと思います。

私たちができること、それは、せつかく福祉を学習している私たちだからできる、障がいがある方への応援メッセージを贈ること、そう思ったのです。津波が襲ってきたとき、車いすの方が逃げ遅れたり、視覚障がいがある方への救助する術が分からなかったり、聴覚障がいがある方が緊急警報の情報がすぐに届かなかつたりしたことを知りました。このメッセージが、少しでもみなさまに届き、1日でも早く、みなさまの心が明るい未来へと進んでいけることを、遠くから願って、応援しています。

これからまた、辛くなったり、悲しくなったり、さみしくなったりしたときには、どうぞ、私たちも同じ空の下で頑張っているということ、思い出してください。そして、また、一步ずつ、ゆっくりと一緒に前へ歩いていきましょう。

2012年5月31日

島根県立邇摩高等学校福祉系列

島根県立出雲養護学校邇摩分教室 一同より